

(事業計画書様式1)

1 概要

公園名	・仏向原ふれあい公園
所在地	・保土ヶ谷区仏向町 1252 番 1 ほか
公園面積、公園種別	・7,204 m ² 街区公園
主な施設	分区園、協働農園、倉庫棟 (トイレ共)、多目的広場、花木の散策路、斜面緑地
特徴	【分区園・協働農園の規模】 ・分区園 (個人) 12 m ² ×45 区画 ・分区園 (団体) 40 m ² ×2 区画 ・協働農園： 果樹園 170 m ² 、景観畑 250 m ² 【その他】 ・公園周辺には、中学校、地域ケアプラザ、新築の戸建住宅が多くあり、遊具や自由広場を設けた一般的公園ニーズに対応しています。 ・公園は、西側・北側に斜面緑地があり、北側・東側に開けた日当たりの良い敷地です。
公園開園日	2019 年 4 月 1 日開園

2 指定管理者概要

(指定管理者が共同事業体の場合は、各団体の概要も表を追加して記載してください)

指定管理者名	横浜植木株式会社
代表者名	代表取締役 伊藤 智司
所在地	横浜市南区唐沢 1 5
指定管理期間	平成 31 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月 31 日
現指定管理者管理運営開始日	2019 年 4 月 1 日～
他に指定管理者に指定されている公園 (市内外問わず)	本牧山頂公園・富岡西公園・瀬谷本郷公園・根岸森林公園・岡津町ふれあい公園・本牧市民公園・本牧臨海公園・仏向原ふれあい公園 (横浜市) 藻南公園・常盤公園・石山緑地・小金湯さくらの森 (札幌市)

(事業計画書様式2)

1 公園運営の全体的な考え方

農園付公園には、農との触れ合い、市民の生活や心を豊かにする癒しや安らぎ、コミュニティ醸成、自然豊かな美しい景観と生態系の保全育成など多くの機能があります。指定管理者は、野菜を栽培する喜びや、旬の野菜を収穫する喜びといった農への関心や欲求を満たす様々な事業展開や、公園や地域の課題解決といった多様なニーズに対応していくことが役割としてあります。

分区園及び協働農園を最大限に活かし、農を感じる風景づくり、地域住民の新たな賑わいのある交流拠点、安全で楽しい子育ての場所を提供し、安らぎと賑わいのある居心地の良い公園づくりをします。当公園は、子ども達の新しい遊び場になることが予測できる為、協働農園を生かして子ども達には旬の野菜のおいしさや収穫する喜びを伝え、その親世代や古くからこの土地に居住する高齢者の方々との新しいコミュニティ形成等、当公園でしかできない経験の機械を作り、管理運営をしていきます。

2 本年度の基本的な管理運営方針

基本方針「農と歴史が育む安らぎと憩いの空間～農・懐・道～」

農：農を通し利用者の環境教育をしていきます。

分区園利用者だけでなく、一般利用者にも農に興味関心を持ってもらい、楽しんでもらう為の仕掛けを作ります。当団体の実績や経験を活かした様々なサポート、野菜や土に触れる収穫体験の実施等を積極的に行います。自ら栽培した野菜や果物を収穫し、食べる喜びを五感で感じてもらうことで「環境教育」・「食育」に繋がります。また子どもから高齢者の方までの幅広い世代への農の普及・分区園利用希望者の拡大を実現します。

懐：懐かしい風景や遊びを共有し、地域や公園の魅力を伝えます。

かつて旧東海道の宿場町であり、農業で栄えていた歴史は、この地域ならではの大きな魅力です。また、当公園は分区園の他に自然が豊かで遊具広場があることも魅力の一つです。これらの「魅力発信」と新設公園である為「知名度向上」に積極的に努めます。農園付公園ならではの農のある風景は、日本人の原風景にも通じる懐かしさがあります。農のある風景の保全・育成・継承をすることと、地域が持つ歴史的な魅力に触れる機会をつくります。

道：地域のことを一番に、より良い公園への道標(みちしるべ)になります。

当団体は、当公園が地域に溶け込み、賑わいのある公園となる為の、地域と公園を繋ぐ道標のような存在になります。野菜作りと収穫の楽しさや地域の歴史、自然の尊さを地域の方々に伝えます。また、地域交流の機会づくりを積極的に行っていきます。協働農園の管理などは地域住民と一緒に取組み、地域を巻き込んだ「市民連携」・「世代間交流」を目標に取組みます。利用者・地域住民に寄り添い、農の魅力で喜びを分かち合う為の道標となることで、より良い公園・地域を目指します。

3 運営業務の実施方針

農：農を通し利用者の環境教育をしていきます。

分区分園利用者へは、当団体ならではのプロのベテラン栽培指導員による栽培相談、当団体が開発したプロ農家用の種苗、資材販売等のサービスを利用者レベルに沿って行い、利用者の満足度の向上と、初心者でも失敗しない野菜作りのサポートを行っていきます。

協働農園では、土づくりから収穫まで地域の方々と行い、土や生き物、自然と触れ合う学習の場としても活用します。野菜の生長、開花、結実そして最後は、「食べる喜び」までサポートし、食育に繋がります。

懐：懐かしい風景や遊びを共有し、地域や公園の魅力を伝えます。

当公園の斜面地は樹林になっており、開園時新植された樹木も含め、とても自然が豊かな公園です。農地や利用者の交流スペースは里地里山のような開放的で自然豊かな眺望の良い風景の中にあります。畑のある風景を美しく継承していき、のどかさを感じる修景づくりに取り組みます。景観畑では、この地域で昔多く栽培されていた畑を連想させるダイコン、ジャガイモ等を栽培し、倉庫を農家の縁側をイメージに、野菜を干したり、利用者が腰を掛けゆっくり休めるような安らぎと憩いのある空間にします。

また、農のある風景の中、大人が子ども達に竹馬や風車などを教え、地域の大人と子ども達が交流する場を設けます。

道：地域のことを一番に、より良い公園への道標(みちしるべ)になります。

当公園の近隣には、新しい住宅街や中学校があり、子ども達が多く、放課後や休日に友達・親子で過ごせる場所が新しくできる事は地域にとって喜ばしく、子育て世代と古くから暮らす世帯が在した地域である為、幅広い世代の地域住民の利用が期待できます。地域の方々にとって安全安心な公園であることはもちろん、地域のコミュニティスペースとして快適に過ごせるよう管理していきます。また、地域の方々にとって世代を越えた新しい交流拠点となるよう、公園を最大限に活かしたふれあいイベントなどの交流イベントを実施していきます。

4 人員・組織体制

当公園の特性、運営方針にふさわしい施設長（以下、「管理運営責任者」という）及び副施設長（以下、「専任担当職員」という）を配置するとともに、現指定管理者としての管理実績に基づく適切な職員の業務分担の運営体制により運営します。

令和 3 年度人員配置表

項目	備考
施設長 1名	管理運営責任者
副施設長 1名	専任担当職員
運営スタッフ（正規） 7名	他農園付公園の専任職員 2名、栽培相談員 1名、本部指定管理課職員 4名
運営スタッフ（非正規） 2名以上	利用者連絡員 1名、地域サポーター（有志）、地域清掃スタッフ 1名

勤務体制等

- ・平日 1 日、土日祝 1 日の週 2 日専任担当職員による巡視点検や、園地除草等維持管理作業、収穫体験、栽培相談などの利用者サービス対応を行います。また、連絡員を登用し、職員不在時でもいち早く公園の状況を把握できるようにし、目の行き届いた管理運営を行います。
- ・時間外の連絡体制・対応は、コールセンターを設け 365 日 24 時間連絡を受付可能にし、二次対応を管理運営責任者、本部担当職員が行います。また専任担当職員については、可能な限り勤務地公園近隣に居住する者を配置し、不測の事態にも早期対応ができるような体制を構築します。さらに、利用者連絡員を配置し、迅速に現地の状況把握と対応ができるようにします。
- ・園内作業やイベント内容に応じて、利用者の安全確保、作業効率化を目的に他農園付公園職員を配置します。専任担当職員のみでの配置による質の低下を防ぐことで、利用者の満足度向上に繋がります。また、公園の状況に応じ、臨機応変に対応できる体制を構築します。
- ・利用者からの要望、点検結果を含めた一日の作業報告は、専任担当職員より必ず管理運営責任者へ速やかに書面、口頭にて行います。ただし、急ぎの案件については、即時口頭にて一報を入れ、すぐに対応できる内容か否かを管理運営責任者が判断し、対応できるものは速やかに対応します。現地で即時対応できないものに関しては、本社で対応について検討します。
- ・管理運営責任者は、公園内業務全ての責任を持ち管理運営を行います。苦情要望への対応やイベントの企画開催、修繕計画・実行などを行います。また、他農園付公園の管理運営責任者と兼任とし、指示系統の一本化を行います。情報の共有化をすることができ、他農園付公園内での病害虫発生状況、不法行為などの情報の共有化、資材や道具などの共有化もしやすくなります。
- ・専任担当職員は、現地責任者とし、現地での利用者対応や園内作業などを行います。毎巡視日に管理運営責任者に当日の作業結果や利用者の様子等、必ず報告をして密に連携します。

5 市民サービスの向上や公園の魅力向上・利用促進

・利用者ニーズの把握取組の考え方

利用者サービス向上の為、満足度把握とともに、利用者の多種多様な要望やニーズを把握します。巡視日に利用者と直接コミュニケーションを取ることを最も重視しており、丁寧な対応を心がけ、利用者がより楽しく快適に過ごせる公園づくりをしていきます。ニーズを把握した際には、積極的かつ迅速な対応で公園の利便性向上や魅力アップに努めます。

また、作業お知らせボードで「公園運営の見える化」に取組み、作業日当日に職員がどこで何の作業をしているのか一目でわかるように設置します。居場所を発信することで、苦情要望や緊急時に迅速に対応できるようになり、安全安心な公園づくりに繋がります。

・満足度向上の取組の考え方

当公園の魅力は、菜園活動や収穫体験ができる場があることです。分区園利用者に向けた栽培相談等の様々なサービス、分区園利用者以外の方々に向けた協働農園を活用した体験等、魅力を最大現に発揮し、より一層向上していくための事業に力を入れて取り組むことで、利用者満足度の向上を図ります。

・広報の考え方

農園付公園は、「分区園全区画を利用・運営する」ことが管理運営の中で大切です。来園者に分区園、公園の魅力を知って頂き、「分区園を借りてみたい」と思ってもらえるような広報活動をし

す。イベントに参加しなかった方に「次回は参加したい」と思ってもらえるように取組みます。農園でのイベントなどを知ってもらう事、参加してもらう事で、公園への興味を引き出します。興味を持ってもらうことで、来園のきっかけをつくり、集客に繋がります。

当公園は、職員常駐の公園ではないことから、公園の掲示板やHP等は来園者とのコミュニケーションツールとして、丁寧に作成し、最新の情報を提供します。またイベントの広報をする際には、当公園の規模で対応できる集客数を考慮し、広報手段を選択します。事前に参加者を募るイベントで区の広報を用いる場合は、定員数を明記する等、慎重に行います。また、ユニバーサルデザインの観点から、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が分かりやすいよう文字の大きさやふりがな、イラストを使用します。

・公園運営改善策について

当公園は、今年度が3年目と新しい公園です。新しい公園では、知名度を向上させ、公園利用者を増やすことが大切です。知名度を向上させる為、開園当時よりInstagramや、HPでの公園情報の発信を行ってきました。さらに、近隣施設の仏向地域ケアプラザの方との繋がりができ、仏向ほっとなまちづくり実行委員会に参加させてもらえることになりました。今後も地域の方と積極的に関わり、より知名度向上に努めていきます。

(事業計画書様式3)

1 公園の維持管理業務の全体的な考え方

誰もが安全安心、清潔快適に利用していただけるよう、高品質の維持管理を行います。

維持管理の手法は、横浜市策定維持保全の手引き、施設管理者点検マニュアルや維持管理水準書に基づき、施設年間管理表、植物年間作業計画表を作成し、安全の確保・美観の維持・施設の長寿命化・環境保全に配慮した維持管理に取り組みます。

当公園は、多くの斜面緑地や果樹、四季の彩りをみせる花木など豊かな自然環境に囲まれています。四季を通じて自然の恵みを全身で感じてもらえるよう、また、人と人を繋ぐコミュニティ形成の場となっていくように、良好な自然環境と景観の維持に努めます。

分区園区域は自主管理を促進していますが、公園という場所柄一般利用者に見られる場所ですので、利用者との協働で「魅せる分区園づくり」を行います。

2 公園施設の維持管理について

巡視について

巡視点検表は、仕様書記載事項のほか、管理する中で気がついた重要点検箇所をエリア毎に図示できる独自の巡視点検表を作成し、使用します。図面とチェックボックス誰が巡視を行っても同じレベルで巡視、管理できるよう工夫しています。チェックボックス見て欲しいことを見逃さないようになり、チェックボックス見直しを行います。図面は、どこにゴミがあったのか、開花している花の場所なども書き込むことで、誰が見ても一目で全体の様子が分かるようにします。

定期巡視	週 2 日 (104 回/年)	巡視点検表に記録
臨時巡視	台風・豪雨・イベント時・ 地域のイベント時	事故の防止、二次災害を防ぐ目的で実施
	※他公園での事故発生時	当公園においても起こりうる案件の場合は、緊急点検後、内容・結果を市に報告

夏季は夏野菜の盗難などの防犯対策、冬季は防火対策として、夜間巡視を必要に応じて実施します。路上駐車などの違法駐車を発見した場合は、声掛けを行い、必要に応じて横浜市、警察に連絡する等、適切に対応を行います。

設備点検について

- ・建物（倉庫・トイレ）の施設点検は、週 5 日（260 回/年）行います。
- ・給排水設備は、日常点検・定期点検を適切に実施し、衛生面に配慮します。特に農作業で発生する土洗いなどで泥による詰まりが発生しやすい為、定期的な点検清掃を行います。
- ・側溝は梅雨期・台風前は重点的に点検し、詰まりのないよう随時清掃を行います。

3 園地管理について

施設の長寿命化のため、日頃の巡視点検時から施設には配慮し、修繕箇所が悪化しないうちに、早期発見・早期対応を心掛けます。

建築保全業務共通仕様書に基づき、点検・保守を行い、施設の長寿命化に努めます。

来園者が気持ちよく公園を散策できるよう、常に清潔で安心安全な路面を保ちます。

巡視時は園路上部の危険枝のチェックを行い、発見した際は随時剪定対応を行います。

4 事故防止の取組、過去に発生した事故の改善策

- ・作業お知らせボードを掲示し、どこでどんな作業を行っているか「作業予告」掲示をするとともに、作業中はコーンなどで区画を「明示」することで利用者への見える化対策を行い、利用者との接触事故が絶対にならないよう配慮します。
- ・園内に車両を駐車する場合は逸走防止の為、必ず車輪に歯止めを設置してその場を離れます。
- ・土休日の機械を使った作業は、埃や騒音、また子どもとの接触事故などの危険がある為、緊急対応作業を除き実施しません。
- ・利用者が作業エリアに接近した場合は、作業者同士がお互いに声を掛け合い、作業を一時中断するなど、利用者の安全を第一とします。
- ・作業終了時は現場での片付け、資機材の整理整頓を行い、来園者への危険や影響がないようにします。休憩時など作業を中断して現場を離れる場合は、特に上記事項を遵守します。
- ・草刈機の使用時は飛散防止ネットやカルマーを使用して小石等の飛散による利用者の怪我や分区分園の野菜が傷つかないように配慮します。

5 清掃、修繕、施設設備改修

日常清掃	巡視時	汚れ・落葉の清掃、ゴミ収集を行います。
定期清掃（独自）	月1回以上	案内板、サインの拭きあげ清掃
臨時清掃	臨時巡視時	特に近隣と接している箇所は、落葉季の清掃を高頻度にし、近隣住民に迷惑がかからないように配慮

- ・当団体は修繕箇所の早期発見を心がけ、日常巡視を行います。発見された不具合は随時修繕を行い、年1回修繕実績を取りまとめ、横浜市へ報告します。
- ・各施設に関しては、耐用年数表と現場の状況に応じて修繕計画表の作成を行い、利用者の安全と利便性確保を第一に修繕の有無を判断し、計画的に修繕を行います。
- ・施設の改善や改良は、利用者や連絡員の意見や要望を聞きながら行い、修繕の要望については、横浜市と相談しながら、迅速に対応します。

施設名	構造	耐用年数	修繕内容
広場	ダスト舗装	10年	不陸修繕、ダスト補充
パーゴラ	鋼製	20年	塗装、破損箇所補修
ベンチ	鋼製・木材	7年	
フェンス	パイプ柵人止柵	15年	
手すり	金鋼製	10年	
掲示板	鋼製	10年	
園路灯	鋼製	15年	塗装、ランプ及び器具交換
複合遊具	鋼製	10年	塗装、消耗部品交換

（事業計画書様式4）

1 緊急時の対応、緊急時マニュアルの活用、各区防災計画との連動等

緊急時は、「造園部部长」陣頭指揮のもと、必要に応じて社長をトップとする緊急時対策本部を設置し、会社全体で対応します。

- ・緊急連絡網に基づき、横浜市の所管部局・警察・消防を含む関係機関と連絡を確実にできるよう、連絡体制を整え、安心・安全を確保します。
- ・震度5強以上の地震発生時は、管理運営責任者や専任担当職員が現地に参集します。町内会とは、利用者の避難誘導、安全確保、応急処置などの訓練を行います。
- ・施設状況は、原則として管理運営責任者が本部と、横浜市所管部局に報告します。ただし緊急かつ重大な事業については、専任担当職員より所管部局に速報を直接入れるなど、状況に応じて適切な対応を行います。

2 災害対応について

大型台風接近時には、園内の掲示物や区画内の設置物（名札、支柱、マルチシート等）について事前の飛散防止対策を行うほか、側溝清掃を行い、U字溝の氾濫を防止します。通過後は、臨時巡視点検を迅速に行い、状況確認を行います。被害に遭った場合は、速やかに対応します。

その他の災害については、災害に応じた適切な対応を取れるよう、市の災害対応マニュアルをもとに作成した「災害時行動マニュアル」を職員全員が把握し、実際の災害時に慌てることのないように、職員ミーティングを活用して準備します。

3 犯罪や路上駐車等の不法行為対策について

- ・分区園は、公園という開かれた場所にある為、作物の盗難やイタズラの恐れがあります。利用者

手作りの看板を設置してもらったり、区画外に物を放置しないよう、美観も意識した「魅せる分区園づくり」に取組み、盗難を防止します。

・連絡員を委嘱し、管理者不在時の公園に対する注意・関心の目を増やし育てることで、地域と共に犯罪防止に取組みます。

4 個人情報保護について

指定管理者（行政の代行者）としての責務を自覚し、個人情報保護法、横浜市個人情報保護条例など、関係法令の遵守を徹底します。当団体では、「個人情報保護規定」及び「個人情報取扱いマニュアル」を独自に策定し、個人情報の保護・管理のための仕組みを作ります。

本公園では「個人情報責任者」＝管理運営責任者を定め、団体本社に、個人情報管理を統括する「個人情報統括責任者」（＝社長）を置き、管理体制を確立します。

①個人情報の適切な管理

②パソコン・インターネット対策

③雇用・取引時の取組

④職員への教育・指導

⑤マイナンバーの取扱い

5 障害者差別解消について

・職員への意識啓蒙に努め、特にハンディキャップのある方の平等利用確保に配慮します。

・障がいのある方と一緒に様々な活動に取り組み、障害者の参画機会を増やします。

・収穫のしやすさに配慮し野菜の作付け等を行います。

・指導看板や自主事業に関わる掲示物等は、できるだけ簡単な言葉とイラストを用いて表現します。

6 運営目標

目標設定の視点	運営目標	目指す管理指数・数値	今後の取組（展望）
業務運営1 （達成目標、運営業務の実施方針）	① 分区園全区画利用 ② 公園の知名度向上	① 利用率 100% ② ふれあいイベント参加者 20 名以上	近隣地域への広報 PR 活動。
業務運営2 （利用者サービスの向上、利用者満足度や利用者数の増、利用しやすさ向上）	① 分区園利用者以外の方の協働農園への来園 ② アンケートの満足度	② 月 5 名 ② 満足度 90%以上	イベントの開催とそれに伴う予告・報告の徹底をして、来園者のリピーターを増やしていく。
業務運営3 （人員配置、緊急時対応計画、防犯防災、災害対応）	緊急時に対応できる柔軟な配置	施設長 1 名 副施設長 1 名 運営スタッフ（正規） 3 名 運営スタッフ（非正規） 2 名以上 本部指定管理課職員 4 名 防災訓練の実施	引き続き徹底していく。 また、本部指定管理課職員のサポートを増やしていく。

人材育成 研修実施効果等	「利用者満足度向上」や「継続的利用」につながる体系的な研修と自己啓発環境の整備	接遇・障がい者対応研修（4月） 個人情報保護研修（4月） 施設長研修（6月） 広報研修（8月） 植栽維持管理研修（年3回） 農業研修（9月）	信頼性、安心感、清潔感、共感力、迅速さを養う研修を実施する。
維持管理1 （施設の保守管理、補修計画）	誰もが安全安心、清潔快適に利用していただけるよう、質の高い維持管理を行う。	横浜市策定「維持管理の手引き」「施設管理者点検マニュアル」や水準書に基づき、「施設年間管理表」「植物年間作業計画表」を作成し、安全の確保・美観の維持・施設の長寿命化・環境保全に配慮した維持管理に取り組む。	人と人を繋ぐコミュニティ形成の場となっているように良好な自然環境と景観維持に努める。
維持管理2（清掃、園地維持管理、災害対応）	建築保全業務共通仕様書に基づき、点検・保守を行い、施設の長寿命化に努める。	維持管理水準以上の頻度で、きめ細かな点検および清掃を実施する。 ・春先の重点草刈り ・台風前の水路清掃 ・冬季の枯死木点検の実施	快適な公園を維持する。
収支 修繕等、収入、支出	各施設に関しては、耐用年数表と現場の状況に応じて、修繕計画表を作成し、利用者の安全と利便性確保を第一に修繕の要不要を判断し、計画的に修繕を行う。	施設の長寿命化の為、計画的に点検、修繕を行う。	早期発見を心掛け、日常巡視を行う。
経費節減策	指定管理料縮減に努める。	・業務の繁閑に応じて効率的に人員を配置。地元雇用を行う。 ・直営作業を基本とし、委託費縮減に努める。 ・自社製品を活用してコスト縮減に努める。	コスト意識を持ち指定管理料縮減に努める。

(事業計画書様式5)

提案事業実施計画一覧(無料自主事業含む)

事業名	内容(募集人数・一人当たりの参加費)	新規	実施時期	回数
作付け講習会	<p>新年度が始まる前に、栽培相談員が土作りや作付け計画等についての講義を行い、講義後相談を受け付け、技術向上・不安解消・意欲増進の目的で実施。</p> <p>分区園利用が初めての方も菜園の計画段階から質問・相談ができ、初心者でも安心して菜園生活をスタートできる。状況によっては、資料のみの配布など柔軟に対応する。</p> <p>(想定人数 40名)</p>		3月	1回
栽培相談日	<p>栽培相談員による現地での相談会を実施。分区園利用者が植付けから収穫まで成功できるようアドバイスする。現地で、一人一人の栽培に関するお悩みや野菜づくりのコツについて、言葉と実演を交えながら丁寧に説明する。(想定人数 50名)</p>		毎月1回(1月～3月除く)	9回
栽培相談ノート	<p>栽培相談日に来られなかった利用者のサポートを目的に実施。倉庫内へ設置し、交換ノートのように利用者が畑での悩みを記入、次回巡視日に栽培相談員が回答を記入する。ノートを設置することで、よりきめ細やかな対応ができ、利用者の菜園生活を手厚くサポートできる。</p>		通年	随時
次は何を育てる?～全区画測定日～	<p>野菜の切替え時期に、全分区園を対象に測定を行う。結果は利用者に伝え、結果を踏まえたアドバイスを実施し、データは蓄積する。</p> <p>(全47区画)</p>		8月	1回
酸度測定	<p>希望する利用者の畑の酸度測定を行う。</p> <p>結果は利用者へ伝え、状況に合わせたアドバイスを行う。</p>		通年	随時
菜園生活ガイドブック	<p>初めて野菜作りをする利用者が、野菜作りの基礎について、いつでも確かめられることを目的に実施。季節の野菜の種類、植付け方法、マルチングの張り方等、写真を使って分かりやすくまとめたものを倉庫内に設置する。巡視日を待たなくても基本的なことはいつでも確かめられるようになる。</p>		通年	随時
資材の無料提供	<p>利用者に、より快適に菜園生活を送ってもらうことを目的に実施。</p> <p>これまでの経験から「少しでも欲しい」という分区園利用者の声を踏まえ設置。(想定人数 40名)</p>		通年	随時
資材の無料レンタル	<p>利用者に、より快適に菜園生活を送ってもらうことを目的に実施。</p> <p>これまでの経験から「少しでも欲しい」という分区園利用者の声を踏まえ、貸出しを行う。(想定人数 40名)</p>		通年	随時

利用者オリジナル区画看板づくり	「魅せる分区園づくり」の一環として利用者に看板を書いてもらう。自分で看板を作ることで、畑に親しみがわくとともに、利用者が明確になることで、いたずら防止にも繋がる。また、利用者が第三者からの視線を意識することで綺麗な畑づくりに繋がる。(実施人数全 47 区画)		通年	随時
温度計・湿度計の設置	熱中症等を防止する自己啓発を目的に実施する。熱中症指数がわかるものを倉庫内に設置し、利用者自身で気を付けることができる。職員の巡視日に猛暑であれば、休憩を呼び掛ける目安にもなる為、熱中症対策として設置。		通年	随時
協働農園のふれあいイベント	分区園利用者でなくても身近に農と触れ合ってもらい、農を普及することを目的に実施。また公園利用者同士の交流の場にもなる。(想定人数 20 名)		通年	随時
公園野菜のおいしいレシピの提案	食を通して農へ興味を持ってもらうことを目的に実施。旬の野菜を簡単に調理できるレシピの掲示や配布等を行い、食べるまで楽しめるサポートをする。農に興味を持ってもらうことで、分区園の利用希望者数拡大に繋げる。		通年	随時
緑のカーテン設置	地球温暖化対策の CO2 削減と植物の生長観察、収穫体験のコーナーにすることを目的に設置。緑のカーテンを公園で実施することで自宅でも簡単に出来ることをアピールし、農の普及に繋げる。	○	5 月～9 月	年 1 回
維持管理発生材の利用	園内及び管理作業で活用し、ゴミを削減することを目的に実施。維持管理作業で発生した剪定枝等は捨てずに、樹名板などに再利用する。		通年	随時
プロの堆肥づくり	園内の大規模な堆肥置き場を活用して、正しい堆肥づくりを行う。ゴミの削減、堆肥代の軽減に繋がり、園内の分区園、協働農園、花壇づくりに利用して、循環型農業を目指す。		通年	随時
農の風景	昔懐かしい里山風景をつくり、温かみと安らぎのある居心地の良い公園にすることを目的に実施。倉庫棟付近にはアサガオの鉢植えを置くなどして、のどかで懐かしい農家の軒先を彷彿させる風景づくりをする。		通年	随時
花いっぱい活動	来園者に綺麗な園内で過ごしてもらうこと、四季を感じてもらうことを目的に実施。ユリやアイスチューリップなど当団体ならではの植栽を行う。一年を通して常に季節の花を楽しめる空間づくりを行い、来園者のおもてなしをする。時には利用者と一緒に花苗を植え、交流の機会をつくる。(想定人数 10 名)		春 1、 秋 1	2 回
緑の補植	風景の保全・育成を目的に山野草や宿根草等の補植を実施。補植を行うことで、来園者に四季を感じてもらうことができ、地被類が増えることで斜面の土の流出防止や管理作業の軽減にも繋がる。		秋	1 回

掲示物の作成	利用者とのコミュニケーションツールとして、掲示板の他にも園内の様々な箇所に掲示を行う。子どもから高齢者の方まで、見て・知って、楽しくなるような情報や新鮮な情報であることを心がける。また QR コードを活用し、HP との連携も行う。		通年	随時
HP・SNS の活用	現在、老若男女を問わず、一人一台持っているスマートフォンを活かす方法として、HP・SNS の運用を積極的に行う。園内の掲示物には、簡単にアクセスできる QR コードを添付し、掲示物より詳細な情報を載せ、手元のメモ代わりに活用してもらう。		通年	随時
地域サポーター協力の呼びかけ	分区園利用者ではない方も含め、協働農園の管理や花壇の整備などを、気軽に幅広く有志でお手伝いしてくれる方を「地域サポーター」として位置付け、一緒に管理運営をしていく。(想定人数 5 名)		通年	随時
収穫祭の開催	地域の方々を対象とした収穫祭を実施し、世代間交流の場とする。自分の手で収穫した野菜を持ち帰ってもらうにあたり、その野菜の育て方やレシピ、地域の歴史等配布等して食育に繋げる。(想定人数 50 名)		通年	随時
昔遊び倶楽部の開催	昔あそびを通して、子ども達の集団の中での協調性を育むと同時に、子ども達と高齢者の方々との交流を促す為に実施。第 1 回目は、仏向地域ケアプラザと協働し、読み聞かせを開催。世代の活発な利用を通して、活気溢れる地域づくりへの貢献を目指す。(想定人数 20 名)	○	春	1 回
瓦版の発行	紙面で最近の公園の出来事、野菜、季節の花などをまとめ、掲示する。公園状況を利用者へ発信することで、公園でどんなことをしているのか、どんな出来事があったのかなどを知ることができる。	○	通年	年 2 回程度
中太り大根を連想させるダイコンの栽培	仏向町は、中太り大根を導入し普及した歴史があるため、その頃を連想させるダイコン畑を作り、少し懐かしさを感じる空間を作る。	○	8 月～ 12 月	年 1 回
公園で遊ぼう	仏向エリア子育て支援連絡会との協働イベントとして、公園内で野菜の植付や収穫などのイベントを開催。 協働農園での農体験も公園の魅力の 1 つであることから、農をテーマに子ども達への公園の魅力発信を行い、子どもを通じて親世代の興味関心を引き出し、分区園利用に繋げていきたい。	○	10 月	1 回

提案事業実施計画一覧（有料自主事業含む）

事業名	内容（募集人数・一人当たりの参加費）	新規	実施時期	回数	自主事業予算額	
					総経費	収入
1 袋ごとの資材販売	堆肥等の重たい資材を職員が現地までお届けするサービス。利用者が車で来園できないことによる資材運搬の負担を減らすことができ、快適な菜園生活をサポートすることを目的に実施する。現地販売資材は、堆肥や石灰、配合肥料の他、当団体オリジナルの発芽率の良い高品質な種等、幅広いニーズに対応する。（想定人数 40 名）		通年	随時	40,000 円	40,000 円
耕運サービス	3 月の年 1 回無料耕運のほか、夏野菜から秋冬野菜の切り替え時など希望者の畑の耕運を行う。（個人 1,000 円/1 回・団体 2,000 円/回）		通年	随時	3,000 円	3,000 円
和綿から糸を紡ごう	植物から糸が出来るまで、和綿を栽培、秋以降収穫して、種繰り・糸紡ぎのワークショップを開催し、身の回りに溢れる布製品の一部がどのように作られて手元に届くのか、体験してもらう。	○	11 月	1	40,000 円	40,000 円
見本！ベジプランター	分区園利用は難しいが野菜作りには興味があるという地域住民に対して、農の普及を目的に実施。ベジプランター教室の開催を行い、植え付けから育て方のレクチャーを行う。その後も見本プランターの設置と QR コードを使用して、育て方をいつでも見れるようにする。実施野菜は、夏野菜を想定している。（想定人数 5 名）	○	春	1	2,500 円	2,500 円
チューリップ観察プランター講習会	球根を植えるところから、花が咲くところまでの観察が出来るプランターづくり。自宅で植物と触れ合う機会を作る。（想定人数 20 名、1,000 円/名）	○	秋	1	20,000 円	20,000 円
収穫野菜の調理	仏向地域ケアプラザと協働し、協働農園で収穫した野菜を使用して、料理教室を行います。新型コロナウイルス、インフルエンザ、食中毒などの懸念がある為、参加者それぞれが調理するのではなく、先生の調理をメインとし、材料とレシピを販売する形で開催を予定。	○	8 月～11 月	年 1 回	10,000 円	10,000 円

	(想定人数 20名 500円)					
仏向フェスタへの参加	仏向地域ケアプラザで開催される仏向フェスタへ参加し、公園の知名度を向上させる。 協働農園で採れた野菜の販売や、種の販売などを行う予定。	○	3月	1回	5,000円	5,000円

(事業計画書様式6)

業務の第三者委託一覧

業務名	内容	再委託会社	年回数	実施月	備考
植栽管理	草刈工 剪定工	(株)佐藤造園	年3回 程度	5月～2月	斜面地の植栽管理
植栽管理	草刈工 剪定工	R3年度中見積 合せ	年3回 程度	5月～2月	斜面地の植栽管理
植栽管理	高木剪定工	R3年度中見積 合せ	年1回 程度	5月～3月	斜面地の植栽管理
植栽管理	高木剪定工	R3年度中見積 合せ	年1回 程度	5月～3月	高所作業を伴う場合
電気設備 保守点検	園内灯設備の保守点検 業務	㈱平岡電機	年1回 以上	3月	園内灯の点検及び球切れなどの非常時対応
施設管理	廃棄物処分	緑のリサイクル プラント	年36回 程度	通年	維持管理作業で発生した草 ゴミなどの処分
コールセ ンター	夜間・緊急時・年末年 始等対応	京浜警備(株)	時間外	通年	時間外の対応 365日24時間連絡受付

(事業計画書様式7) 税込み金額

収支予算書(指定管理料のみ)

(円単位)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
収入の部						
指定管理料	7,806,166					
利用料金収入	930,000					
自主事業収入	120,500					
雑入	0					
その他雑入	0					
収入合計	8,856,666					

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
支出の部						
人件費	3,578,500					
給与・賃金	3,040,600					
社会保険料	496,000					
通勤手当	24,500					
健康診断費	17,400					
勤労者福祉共済掛金	0					
退職給付引当金繰入額	0					
事務費	1,714,694					

旅費	110,000				
消耗品費	877,694				
会議賄い費	0				
印刷製本費	0				
使用料及び賃借料	0				
(横浜市への支払い分)	0				
(その他)	0				
備品購入費	350,000				
図書購入費	0				今年度更新無
施設責任賠償保険	36,000				見積額
職員等研修費	50,000				
振込手数料	1,000				
リース料	240,000				
手数料	20,000				説明会切手代 など
地域協力費	30,000				
自主事業費	120,500				
管理費総合計	5,413,694				
光熱水費合計	260,000				市提案額
光熱水費（電気）	113,000				
光熱水費（ガス）	0				
光熱水費（水道）	147,000				
光熱水費（下水道）	0				
清掃費	460,000				
修繕費	150,000				提案書額
機械警備費	132,000				
施設保全費	2,060,000				
空調衛生設備保守	0				
消防設備保守	0				
電気設備保守	110,000				電気設備点検
害虫駆除清掃保守	0				
その他保全費・園地管理費	1,950,000				草刈 130 万円、 樹木剪定 35 万円、 廃棄物処分 30 万円
共益費（合築等の場合）	0				
公租公課	0				
公租公課（事業所税）	0				
公租公課（消費税）	0				
公租公課（印紙税）	0				
その他公租公課	0				
事務経費	380,972				
事務経費（本部分）	375,972				本部社員人件費
事務経費（当該施設分）	5,000				利用者連絡員 通信費
その他経費（当該公園分）	0				
支出合計	8,856,666				
差引	0				

(参考) 指定管理料外の経費

設置管理許可収入合計	120,000				自動販売機
設置管理許可支出合計	42,520				
差引	77,480				